

研修報告



Trainee Report

Daido Steel (America) Inc. 研修報告

黒瀬 亮*

My Experience as a Trainee at Daido Steel (America) Inc.

Ryo KUROSE

1. 研修の経緯

まず初めに、当社における海外トレーニー制度について説明させていただく。当社には、入社4年目以降の社員を対象に外国における現地法人および当社の現地駐在員事務所にて、業務を通じ、海外の文化、言語、ビジネス慣習を経験させるグローバル人材育成の制度がある。基本的には、自己推薦による形態であり、研修内容、目的を事前に自主的に計画する必要がある。

私が海外トレーニーを希望するに至った経緯であるが、入社5年目に海外向け製品の製造技術担当を任せられ、英語を使った業務が日常となる中、特に顧客と会話する際に、語学力不足により意思疎通が困難であったことが背景にある。当社では、近年、海外向け製品の割合を増やすことに力を入れており、自ら率先して海外顧客とコミュニケーションのとれる人材になりたいと感じたため、この制度に応募し、2016年10月から約1年間の研修機会を与えていただいた。

私が御世話になった Daido Steel (America) Inc. は、当社の特殊鋼製品および原料に関する輸入、輸出、購買、販売を行っており、アメリカのイリノイ州シャンバーグとテキサス州ヒューストンの2拠点に事務所を構えている。私はイリノイ州に滞在し、そこでは主に当社顧客に対する技術的な対応に携わり、また、テキサス州では主に営業活動に同行することで工場業務とは異なる経験をさせていただけた。



Fig. 1. The office in Illinois at that time.

2. 研 修

2. 1 研修先について

シャンバーグは、アメリカ第3の都市であるシカゴ市から車で30分の位置にあり、シカゴに次ぎ在留邦人も多く、日本企業も多数事務所を構えている。シカゴは、アメリカにおける鉄道、航空、海運の拠点として、また、ミシガン湖周辺の五大湖工業地帯の中心として発展してきた都市である。ダウンタウンにはシカゴ派と呼ばれる高層建築の先駆となった建物がそびえ立ち、現在も主に商業、金融、流通において、アメリカの重要拠点の一つとなっている。プロスポーツにおいては、野球では2つのメジャーチーム、アメフト、アイスホッケー、バスケットボールもそれぞれ1チームが本拠地を置いてい

2020年10月8日 受付

* 大同特殊鋼(株)渋谷工場 (Shibukawa Plant, Daido Steel Co., Ltd.)

ることから、スポーツが盛んで熱気のある街の一つとして有名である。

ヒューストンは、テキサス州南東部に位置し、アメリカ第4の都市である。主に油田発見による石油精製、石油化学産業を中心に栄えてきた。スーパーメジャーと呼ばれる6大石油会社のうち、4社が主要な拠点を置いていることから石油産業による発展のすごみがわかる。また、NASAのジョンソン宇宙センターが設置されていることもあり航空宇宙産業も発展してきた。



Fig. 2. Johnson Space Center in Texas (top), the city of Chicago in Illinois (bottom).

2. 2 海外研修で学んだこと

研修前は、発電、石油・化学プラント、航空分野向けの素形材製品に関する製造技術に従事していたため、それらの分野を中心に業務を行っていた。一方で研修先はアメリカにおける当社全体の窓口でもあることから、自動車向け鋼材、工具鋼、粉末などの多数の製品群および多業種にわたる顧客との取引に関する業務に携わることができた。

特に印象に残っている技術サービス業務は、当社における新規Ni基合金の開発を進める中での、イリノイ州にある企業への研究委託に関するもので、同社との契約手続きの当社窓口として日米間のパイプ役となり締結まで対応を任せていただいた。同社はICME (Integrated Computational Materials Engineering) 技術を活用しシミュ

レーションによる新規材料の開発に特化した企業であり、当社の要求内容と、同社で研究できる内容の、細部にわたる調整を中心に行った。

また、営業活動の同行においては、月1回のペースでヒューストンへ足を運び、主に石油掘削に関連する顧客と直接会話をする機会を与えていただいた。顧客ごとに重要視しているポイントが異なり、品質 (Q)、価格 (C)、納期 (D) の中でどれが重要かを都度、正確に把握し、技術的に当社で対応可能であるかの判断を短納期で行う重要性を改めて感じた。アメリカでの業務を通して、限られた時間の中で、顧客の要望、要求に当社製品がどのように貢献できるかを、シンプルかつ的確に伝えることの難しさを痛感した。

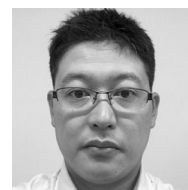
2. 3 海外生活について

本研修制度は、前述の通り自主性に重きを置いている部分があり、現地での研修および滞在に必要なビザ取得、滞在先の手配、銀行口座開設、運転免許取得など、生活に関わる基盤構築もミッションの一つである。アメリカではそれぞれの申請において準備する身分証、証明書が異なり、日本のパスポート以外に、所得証明など、必要な書類の準備に奔走した。滞在する州により法律が異なり、各州でのルールを理解することも学びが大きかった。外国で生活する大変さを度々実感し、日本での生活がどれほど暮らしやすい環境であるかを改めて感じた。しかし、事務所周辺、住宅街には日本に比べ非常に緑が多く、土地も広大なことから気持ちが和らぎ、リフレッシュしやすい環境でもあった。

また、移民を積極的に受け入れている歴史もあり、白人、黒人、ヒスパニック系、アジア系と多民族で、多種多様な文化が垣間見えた。さらに、個人が意見を主張し、それを尊重するシーンが度々見られ、能動的、積極的に動き、会話する重要性を感じた。

3. 研修を終えて

貴重で有意義な経験をさせていただき、研修中に御指導いただきました。社内およびグループ会社の関係者の皆様に御礼申し上げます。この研修により得た経験を、今後の技術開発、技術サービス業務に活かしていきたい。研修後は海外顧客向けの製品担当を任せられ、顧客と会話する機会がある中、研修前に比べ対応能力向上を感じることができている。



黒瀬 亮